3 令和7年度国際シンポジウム開催事業「第10回アザリアフェスティバルシンポジウム「希少難病てんかんの分子病態と治療戦略」」

実行委員長　廣瀬　伸一
（福岡大学医学部総合医学研究センター　教授）

「The Molecular Pathomechanismsand Therapeutic Strategies of Rare and Intractable Epilepsies」をテーマとして、2026年3月27日から29日までの3日間にわたり、福岡大学病院メディカルホールにて開催された。本シンポジウムは、台湾大学において2017年より継続して開催されてきたアザリアフェスティバルシンポジウムの第10回記念大会であり、初めて台湾以外で開催された点においても意義深いものであった。

本シンポジウムには、日本をはじめアジア・オセアニア、欧州など世界各国から、小児神経学およびてんかん研究の分野における第一線の研究者および臨床医が参加し、てんかんの遺伝学、チャネル病、神経発達障害との関連、次世代シークエンス解析、ならびに分子病態に基づく治療戦略など、多岐にわたるテーマについて講演および討議が行われた。特に、遺伝子変異に基づく病態解明とそれに対応した精密医療の可能性について、基礎研究と臨床の双方の視点から活発な議論が展開された。

近年の次世代シークエンス技術の進展により、難治性てんかんにおける遺伝学的背景の解明が急速に進み、遺伝子診断は臨床現場で日常的に活用される段階に至っている。本シンポジウムでは、こうした診断技術の実臨床への応用や、特定の遺伝子異常に基づく治療戦略の可能性について具体的な症例や研究成果を踏まえた報告がなされ、診断から治療へとつながる新たな診療の方向性が示された。

また、若手研究者によるポスター発表および国際的なディスカッションを通じて、次世代研

究者の育成と国際交流の促進が図られた。さらに、トラベルグラントの提供により多様な地域からの参加が実現し、アジアを中心とした国際的研究ネットワークの強化にも寄与した。加えて、本シンポジウムは対面形式で開催されたことにより、講演後の討議や非公式の交流を通じて研究者・臨床医間の人的交流が深化し、新たな共同研究の契機が生まれるなど、学術的成果に加えて人的ネットワークの形成という点でも重要な成果を上げた。

以上のように、本シンポジウムは、希少・難治性てんかんに関する分子病態の理解とそれに基づく診療・治療戦略の発展に寄与するとともに、国際的な研究連携および次世代人材育成の面においても有意義な成果を達成した。